

船舶事故調査報告書

令和2年3月25日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和元年11月4日 15時30分ごろ
発生場所	山口県岩国市通津美ヶ浦公園沖 由宇港由宇1号防波堤灯台から真方位348° 2.2海里付近 (概位 北緯34°04.7′ 東経132°12.6′)
事故の概要	プレジャーボートしぶきは、舵取機の修理をしながら錨泊中、走錨して浅所に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和元年12月4日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	プレジャーボート しぶき、2.1トン YG3—62397（漁船登録番号）、個人所有 第271—21718号（船舶検査済票の番号）
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船底外板に擦過傷及び亀裂
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北東、風力 3、視界 良好 海象：波向 北東、波高 約0.6m、潮汐 高潮時、潮高 約286cm（岩国）
事故の経過	本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者4人を乗せ、釣り場を移動中、舵取機が故障したので錨泊し、船長が、舵取機の修理をしていたところ、走錨して浅所に乗り揚げた。 本船の喫水は、船首約0.4m、船尾約1.0mであった。 本船は、船長による手作りの錨（重さ約20kg）の下端に錨索を結び、錨の上部を錨索とともに、3重又は4重にしたたこ糸で結んでおき、根掛りしたらウインチで負荷を掛けてたこ糸を切断し、錨の下端を持ち上げて回収できるように対策（以下「根掛り対策」という。）されていたが、本事故後、たこ糸が切断していた。
分析	本船は、風力3の北東風が吹く状況下、舵取機を修理する目的で、根掛り対策を講じた錨を使用して錨泊中、錨の上部及び錨索を係止するたこ糸が切断したことから、錨索により錨の下端が持ち上げられ、錨爪が海底から外れて把駐力がなくなり、走錨して南西方向に圧流され、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、風力3の北東風が吹く状況下、舵取機を修理する目的で、根掛り対策を講じた錨を使用して錨泊中、錨の上部及び錨索を係止するたこ糸が切断したため、錨索により錨の下端が持ち上げられ、錨爪が海底から外れて把駐力がなくなり、走錨して南西方向に

	<p>圧流され、本件浅所に乗り揚げたものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 根掛り対策を講じた錨を使用する際には、風浪により錨の上部及び錨索に係止した細索が切断されることに留意し、船位を確認して走錨に注意すること。 ・ 錨泊する際は、可能な限り周囲に浅所等がない安全な海域を選ぶこと。